



# 一步一步が人間道場

滝 陽介

TAKI Yosuke

自治財政局公営企業課準公営企業室長

## これまでのキャリアをふりかえて

「人生において無駄だったことは何一つない」。これまでを振り返れば、まさにこの一言に尽きます。

入省以来、霞ヶ関と地方の職場を往復する中で、多くの人と出会い、喜び、仕事の達成感があった一方で、心がくじけそうになる厳しい場面もありました。しかし、最近になって、一管理職として、政策に深く触れ、考え、責任を担う場面が増えるに従い、これまでの経験の全てが自分の教訓として活かされている・・・と実感します。

総務省人として自分がそう思うの根源には、国としての政策を考える上で、地方の現場での多様な経験と人脈、それらに裏打ちされた豊かな想像力を大切に総務省の魂を感じます。打ち克つべき課題が山積する時代の中で、社会人として日々一歩一歩自らを研鑽しながら多様な社会に役立つ仕事をしたいと願う皆さんと一緒に働くことを楽しみにしています。



富山県議会本会議で経営管理部長として答弁



秋田県東瀬村の方々とはBBQ。秋田県赴任以来、20年来の親交です。(右から2番目)

### 2023～現在 総務省自治財政局公営企業課準公営企業室長

住民生活に不可欠な公立病院と下水道事業を担当。労働生産人口が減少する中で、持続可能な行政サービスの提供に向け何をなすべきなのか。長く続いたデフレから脱却する中で、地方財政制度の守るべき点と変革すべき点は何なのか。自問自答しながら格闘する日々です。

### 2022～2023 消防庁消防・救急課救急企画室長

新型コロナの感染者数が急増し救急需要が逼迫する中、緊急性の高い傷病者の救急搬送を迅速に行う体制整備に向け、全国の消防機関や厚生労働省等と綿密に連携して臨む日々。日夜献身的に対応されている救急隊員、医療従事者の方々に心からの敬意と感謝の思いでいっぱいでした。

### 2017～2021 富山県経営管理部長

知事を間近で支える幹部の一人として、県職員が働きやすい環境をどのように整備するのか。県議会、地元メディアへの対応をはじめ、県内の隅々にまで目を配りつつ、地域の持続的な発展のために何をなすべきか、懸命に考え奔走する日々でした。

### 2012～2017 総務省自治税務局都道府県税課課長補佐(2012年～2014年) 総務省自治税務局企画課課長補佐・理事官(2014年～2016年) 総務省自治税務局企画課税務企画官(2016年～2017年)

社会保障・税一体改革による地方消費税の税率引上げ、地方法人課税の偏在是正など、地方税制の抜本改正に主担当として取り組みました。過去からの制度の積み重ねと、新しい時代への柔軟な対応の双方のバランスが重要であることに気づかされた貴重な経験でした。

### 2010～2012 消防庁予防課課長補佐

火災から住民を守るための防火管理や消防用設備等の規制の在り方を消防関係者と議論し、消防法改正を実現しました。東日本大震災の危機管理対応にも発災直後から従事し、緊急消防援助隊とともに福島県内(県庁、楡葉町)で活動するなど、災害時の行政の役割の重要性を痛感しました。

### 2006～2010 福井県安全環境部環境政策課長(2006年～2008年) 福井県総務部財務企画課長(2008年～2010年)

30歳で初の管理職経験。温暖化対策の普及に向けたイベントなど、役所の壁を越えて民間企業や市民団体の方々と一緒に汗を流した日々。財務企画課時代は、福井県予算4,700億円の実務責任者として、県政のほぼ全分野の課題について、県職員と日夜熱く議論を交わしました。

### 2003～2006 総務省自治税務局都道府県税課(2003年～2005年) 総務省自治税務局企画課(2005年～2006年)

シャープ勧告以来の地方税制の悲願であった事業税の外形標準課税の導入、三位一体改革における国から地方への3兆円の税源移譲など、この国のかたちに関わる大きな制度改革の法制担当として、緊張感と高揚感にあふれる充実した若き日々でした。

### 2000～2002 秋田県企画振興部市町村課

入省4ヶ月後に赴任した秋田県。県庁や市町村職員の方々に、仕事の仕方をはじめ、地方自治の現場を一から教えていただいた日々。温暖な静岡育ちの私にとっては初の雪国生活でもありました。秋田県は、私にとって社会人としての大切な原点、ふるさとです。



富山県立山地区の室堂山(2,668m)に携帯基地局設置。3年越しの事業でしたが感無量でした。